

アメリカ留学報告

福王寺 啓

8月26日から12月20日まで約4か月間のアメリカ・ミズーリ州において、語学留学に行ってきました。入学当初から、このアメリカ留学に参加したいと思っていました。なぜならば、英語の本場であるアメリカで英語という語学を学ぶとともに、アメリカの文化・習慣を自分の肌で感じてみたいと思っていたからです。また、留学に行ってきた先輩や先生がたの話を聞きさらに思いが強まり、留学に行くことを決めました。そんな気持ちで臨んだ留学で、さまざまな事を学ぶことができました。その中で、主な三つのことをこの報告書で報告していきます。

まず、一つ目は語学の重要性です。日本で生活していたころから、語学の大切さについては感じてはいましたが、現在はより一層感じています。そのきっかけは、アメリカ・中国・韓国・ネパールなどなどのいろいろな国籍を持つ人々との交流でした。自分は、新潟国際情報大學で留学に参加した中でも一番英語が話せないようなレベルでした。なので、留学の初め1か月は、英語を聞くこともままならず、授業に参加するというよりは、着いていくことで精一杯な状況でした。そんな中、**Suraj Gamal** という男の子が話しかけてくれました。彼は、とても日本の事が好きだと言って、英語がカタコトな私にいろいろな工夫をして話しかけてくれ、時にはスピーチの練習にも付き合ってくれました。今思えば非常にありがたいことだなと感じています。その後、彼をはじめとするいろいろな人と交流する機会が増えていきました。その並行して、もっと相手の事を知りたいという思いが強まり、実際に話したり、一緒にご飯を食べたり、メールを通じ交流しました。そして、何気なくルームメイトの日本人と話したとき、語学の素晴らしさを肌で感じました。それは、日本で今まで通りに生活しては決して感じる事の出来ない感情でした。現在、その感情を言葉で表現することはできません。これから先、見つけることができたらと思っています。また、アメリカでいい関係を築いた方とはこれからも交流を続け、自分のキャパシティを広げていきたいです。このように英語にかかわらず語学は、コミュニケーションをとる上で最良の方法の中の一つだということを学びました。



二つ目は、固定観念についてです。自分自身留学に行く以前はアメリカに対して、固定観念（ステレオタイプ）を持っていました。例えば、幼いころからアメリカのバスケットボー

ルを見ていた影響でアメリカ人はものすごく体格が大きいとか、とてつもない大きさのハンバーガーを食べているとか、挨拶には抱擁を交わすなどです。冷静に考えてみれば、そんな事全員が全員当てはまるわけがないというのは当たり前ですが、留学に行くまでの19年間のうちで知らずのうちにそのステレオタイプを自分に植え付けてきたのです。そんな考え方を捨てさせてくれたのは、留学プログラムにあった、**conversation partner** との週二回の会話の時間でした。**Conversation partner** の **Grant Sundberg** はアメリカについて様々なことを教えてくれました。もともと **speaking** と **listening** の向上のために行われているこのプログラムでしたが、彼はそれ以上のものを与えてくれたと思います。そんな時間は自分にとって、とても有意義であり、毎週毎週待ち遠しい時間でした。それに加えて、**American culture** という授業、**Field trip** でのカンザスシティなどの市街に観光し、アメリカ人の生活観を感じることができました。そのような時間を過ごしていく中で、自分のステレオタイプは自然に消えていきました。また、「ここはミズーリだから、ボストンやロサンゼルスとは違うよ、アメリカをひとくくりにはしないで」という **Foot** 先生の言葉はとても印象に残りました。そんな時間を過ごし、ステレオタイプは以前より少なくなったものの、依然として残っていると思うのでそれをどれだけ削っていき、知識との差別化をするのが今後の課題です。

最後の三つ目は、自分がどれだけ周りの方々に支えてもらって生活ということでした。アメリカでの4か月は初めて親元を離れての生活でした。離れてみてわかることが沢山ありました。家に帰ればご飯ができていて、服を置いておけば勝手に洗濯される。自分の中で当たり前だったことが当たり前じゃなくなる、はじめはものすごく不思議な感覚でした。また家族以外にも、藤本先生をはじめとする大学の先生方をはじめ、学務課の皆さんの力も日々感じて生活することができました。特に、藤本先生はいろいろな事がある度、メールをくださりお忙しい中日本から留学生の事を気にして、支えていただきました。また、アメリカの先生方、**ESL** スタッフの方、さらには **Thanksgiving days** をはじめとする休日にお世話になった **Pat** さん **Mindy** さん **Linda** さん **Mike** さん、ほんとに沢山の方に支えてもらっていた4か月でした。また、4か月同じ部屋で支えあったルームメイトの水内君には本当に感謝しています。彼は自分より上のクラスに所属し、自分の課題だけでも大変な中いろいろな面で支えていただきました。例えば、分からない単語や使いまわしがあると教えてくれたり、上のクラスで習ったことを教えてくれた事もありました。特に、体調がすぐれないときに薬を出してくれました。彼とはこれからもいい関係を築いていきたいと思っています。

このように、この留学を通して大きなことを学ばさせていただきました。これらの学んだことは自分の人生にとってとても意味があることだと感じています。しかしながら、今度この学んだ事をいかしていくことこそが一番大切だと考えています。社会人になるまであと2年間学校内外でその学んだこと、肌で感じたことを発揮し、支えていただいた分他人に影響を与えられるように生活していきたいです。そして、いつの日かアメリカに訪れる機会を得たならば、留学時アメリカで支えてくれた人たちに恩返しができたらと考えています。こ

の留学に参加できたこと、この留学を通し多くの人に出会えたこと本当にうれしく思います。

ここからは、学校生活、行事、休日の過ごし方についてそれぞれ分けて報告します。

学校生活

日頃の授業は前期が月曜日から金曜日、後期は月曜日から木曜日に行われます。朝は9時から10時に始まりそれぞれ午後の3時には終了し、それから各自イベントに参加します。毎日小テストなどもあるのでみんなバランスよくイベント各種に参加していました。その他は、本当に自由なので自分の部屋で休むのもありですし、友人と会話を楽しんだり、買い物に行くなどさまざま形で過ごしていたことだと思います。また、授業は、AとBの2クラスに分かれそれぞれ Reading, Writing, Listening, Grammar, を学びます。Mrs. Hardee と Mrs. K が丁寧に教えてくれます。それに加え、Dr. Foot が TOEIC のスコアを伸ばすための授業を行ってもらいました。クラスには、それぞれ中国や韓国、サウジアラビアの国籍を持つ人たちがいて、いろんな発想に出会うことができます。その他、交流の時間としてネイティブの方々がクラスに来て会話の練習をする機会もありました。放課後には、宿題のわからない所を質問できるように現地の生徒が残って教えてくれる時間もありました。

行事

毎日のようにイベントがありますが、主なものを挙げると、アメリカンフットボールの観戦、ハロウィン、Thanksgiving day です。ノースウエストミズーリ大学のアメリカンフットボールチームは全米の中でも強豪でとても強いです。観戦に行くと、必ず勝つぐらいの強さです。また、球場はとても大きいにも関わらず、地域の人たちチームのファン生徒でスタンドはいっぱいになり、大盛り上がりです。そのフットボールの試合の合間にはチアリーダーやブラスバンドのパフォーマンスがあり、ルールがわからなくても楽しめる要素が満載です。ハロウィンでは、皆がそれぞれ創意工夫を凝らした変装をし、パーティを楽しみました。Thanksgiving day の期間は学校が約1週間休みとなり、学校施設や寮も閉鎖されるため、FIS ファミリーの方々のお宅に泊まることとなります。その期間は、Thanksgiving day の伝統料理、アメリカならではの生活スタイルを直に触れました。その他にも、本当にたくさん行事があり毎日毎日楽しい時間を過ごすことができました。また、先生が同伴のミニ旅行もあり、カンザスシティなど都市にも行くことが可能です。その場所で、多くの人はお土産を買ったり、日本では買えない物を買ったりしていました。各イベントには先生とアメリカ人の生徒がついてくれることもあるのですごくなじみやすく気軽に楽しむことができました。それに加え、Dr. Foot から演劇のチケットをいただき貴重な体験もできました。

休日の過ごし方

休日の過ごし方は人それぞれです。FISの家族の方とでかける、友人と過ごす、課題をやるなど各自自由で充実した休日を過ごしていました。ちなみに、私は毎週に日曜日 FISの家族の皆さんと過ごしていました。そして、教会行きさらに多くの地域の人と交流できたのと同時に、仏教や神道以外の宗教に触れる機会が持てました。教会にいた皆さんは、違う宗教を信じる私たちの事も温かく迎えてくださり、挨拶をするだけでなく、会話も楽しむことができました。また別の日には、キャンプファイヤーをやってホットドック食べたり、野鳥を観察したりしました。FISの家族との交流はその家族によって個人差はありますがみんな充実した交流を行っていました。また、運動施設を充実完備なのに加え今年から新しいジムも開設され、いろいろなスポーツを楽しむことができます。私は、バスケットボールを幼い時からやっていたので、コートで初めて会う人とも一緒にプレーすることができ、スポーツという面でもコミュニケーションをとることができました。



最後に

この留学では、学ぶことが沢山あります。個人個人の留学の形があり、いろいろな正解があると考えます。誰の留学が成功したとかは関係がないと思います。なので、ぜひ機会があるのなら留学を考えてみてくださいきっといい経験を得られるはずです。